

年間第23主日

福音朗読 マタイ 18・15-20

2023.9.10 9:30 ミサ  
カトリック高円寺教会  
主任司祭 高木健次神父

今日の福音では、最初の世代のキリスト信者たちの中で罪を犯した人あるいは間違っている生き方をする人を戒める、その手続きのようなことが語られていました。最初は二人だけで、そしてそのあとには二人か三人の他の人と一緒に、そして最後は教会を通してという。そしてまた、二人や三人が一緒にお祈りするときにイエス様がそこにいらっしゃるということばも語られていました。まとめれば、わたしたちが自分の狭い考えの中だけに留まるときに、神様との繋がりが切れてしまう。例えば、誰かにアドバイスをしたり導くときも、また誰かからアドバイスを受けるときも、ということになります。

わたしたちが、今日もこのミサに集まっておりますけども、それぞれのおうちから出て、そしてこの聖堂に、神様の御前に共に集まるというのは、ただ便宜的に——言っては悪いですが初詣で神社とかに押し寄せる人々のように——それぞれ自分の願いの中だけに留まりながら偶々ここに集まっている、というのではありません。わたしたちは自分の家から出てここに集まるという動作そのものの中に、一人ひとりの狭い考えから出て、そして神様の御前で、他の人々との繋がりの中でより大きなものの見方あるいは心の関心、自分のことだけに向けられた関心から他の人のことまで考えるように広い心を求めて、一人ひとりが家から出て教会に集まるという動作そのものにもその意味が籠められていると言ってよいと思います。

そしてまた、このごミサの中でご聖体をいただく、神のみことばであるかたをわたしたちの中にお迎えするということは、お迎えして「イエス様、わたしの言うことを聞いてください」というのではなく、「イエス様のおっしゃることに耳を傾けることができますように」という、そのために助けていただく、そのためにご聖体をお迎えするということになるわけです。どんな時でも、人が孤立して自分の中に閉じ籠ってしまうということを今日のみことばは大変注意するようにと促しているように思います。

創世記のエデンの園の物語、最初の人類の物語がありますけれども、そこから着想を得て、そこからちょっと膨らましたお話を聞いたことがあります。そのお

話では、エデンの園で最初の人類は神様からお互いに出会わせていただいたあとに、エデンの園を管理するお仕事を、役割を負っていたわけですが、その仕事をするために、出会った二人はずうっと手を繋ぎながらお仕事をしていたわけですね。いつも二人は一緒だ、と。しかしある時に気が付いて、これは手を放して別々に仕事をするならば、その分今までよりも2倍の仕事をする事ができる、2倍の木の実を集めることができるという考えになって、二人は手を放し、それぞれ別々の場所で働くようになった。そうして人が独りになったときに、蛇が忍び寄って来て、神様からのみことばから離れるように誘ってくる。そういうようなお話です。

この現代社会において、わたしたちが独りになってしまう、そのようにさせる要因がたくさんあります。もちろん実際に、物理的に四六時中手を繋ぎながらお仕事をすることは出来ませんが、しかし精神的に自分の考えだけの中に留まっていこうとするいろんな促しの中に大きな危険が潜んでいるということ、このお話を通して思い起こすことができるのではないかなと思います。独りになったときに、自分の中にある悪への傾き、罪の傾向というものが手を付けられなくなる、それがどんどんどんどん増大していく、もっと簡単に言えば頑固になっていくということです。

わたしたちは、絶えず誰かと手を繋ぎながらということではないけれど、絶えずイエス様と手を繋ぎながらそれぞれの人生の歩みを、そして今直面しなければならない課題に対処していく必要があるし、そのわたしたちが手を繋いでいるイエス様は色々な人の姿を通してわたしたちに語り掛けて来る、そしてとりわけ、「教会」ということが出てまいりますけれども、教皇様のメッセージをはじめとする教会の教えということもやっぱりある程度は念頭に置きながら自分自身の生活や生き方ということ判断していかなければならないんじゃないかなと思います。

もちろん、一人ひとりが教会の言いなりに、言う通りになって、自分で考えることを止めてロボットのようになりなさいというふう呼び掛けられているわけではありません。一人ひとりの人生はそれぞれの責任と自由を担って決めていかなければならないわけですが、その時にやっぱりわたしたちは教皇様をはじめとする教会の指針ということ完全を度外視して、自分の都合で用いることのできるような施設として考えてしまうならば、それは自分自身の殻からあるいは狭い考えから導き出そうとしてくれる神様の呼び掛けに耳を塞いでしまうということになると思います。

わたしたちはだんだん大人になるに従って、年を取るに従って、いろんなことをアドバイスしたり注意してくれる人が周りからいなくなる、あるいは遠ざけることができるようになる、その危険を絶えずはらんでいます。だからこそ、大人になればなるほど、ごミサに集まることを通して、自分自身の中に閉じ籠るのではない、もっと広いものの見方で、他の人々と共にあるということを思い起こさせていただく必要があるかもしれません。もちろん子どもたちも小さい頃からそのことをいつも意識するということは大切なわけですが、子どもたちはいろんな形で外側からの影響に身を晒されている。でも大人はだんだん回避することができるようになってくるからこそ、そこに危険があると言わなければならないでしょう。

わたしたちが絶えず神様の御前では神の子どもとして、素直な気持ちでその呼び掛けに聞き従うことができますように。神様の呼び掛けは周りの人や教会の教えを通して、また聖書を通してわたしたちに届けられる、そのことに信頼して聞く耳を持つ、その恵みを願いながら、このごミサを共に捧げたいと思います。

---

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>